



花園大学



同窓会通信



CONTENTS

大学ニュース	2
〈凱旋セレモニー〉 廣瀬順子氏 × 横田南嶺総長 対談	6
同窓会ニュース	8
「お元気ですか」	9
部活紹介	10
卒業生の活躍	11

学長ご挨拶

学長 磯田 文雄



日頃、花園大学の教育研究の充実発展のためにご支援いただいておりますことを厚くお礼申し上げます。

令和6年度の京都府内の高等学校卒業者の大学等進学率は74.0%で、昨年の73.0%より、1.0%増加しています。大衆化した大学教育をどのように位置付け、どのような活動を行っていくか、特に、通信制高等学校の卒業生の増加が各大学の新しい課題として議論されています。

京都府の学校基本調査報告（令和6年度）によりますと、京都府内で通信課程をもつ高等学校は、私立の新設1校により、独立校3校（私立3校）、併置校7校（公立2校、私立5校）で、前年度より1校増となっています。生徒数は3,317人（男子1,522人、女子1,795人）で、前年度より445人、15.5%増加しています。また、令和5年4月から令和6年3月までの卒業生数は808人となっており、そのうち大学等進学者は235人（29.1%）です。

文部科学省の制度改正により、令和6年4月から、通信課程だけでなく、全日制・定時制の課程においても、不登校生徒等について教育上有益な場合は通信教育を行ってもよいこととなりました。文部科学省は、今回の制度改正により、生徒の不登校状態の深刻化、安易な単位認定、他の生徒の学習意欲の低下等の弊害が生じないように留意するよう教育委員会に求めています。現場の校長たちは戸惑いを感じ対応に苦慮しています。

一方、広域性の通信高校である角川ドワンゴ学園N高等学校、S高等学校が、インターネットの高等学校として大きく発展しており、N高、S校は、2016年の創立から8年で生徒数3万人を突破したとホームページで発表しています。角川ドワンゴ学園は、2025年4月から、オンライン大学ZEN大学を入学定員3,500人で開学します。

荒川克己氏は、元京都市立堀川高等学校の校長で、普通の公立高校を一気に全国有数の進学校に変え「堀川の奇跡」を実現したことで有名です。現在、独立行政法人教職員支援機構理事長であり、文部科学省の中央教育審議会会長を務めています。荒川氏は、これらの通信制教育機関を高く評価していると言われています。

学校に通わない若者の急激な増加をどのように受け止めるのか。明らかなことは、不登校の生徒が大学に通学するようになるにはかなりの教育力が求められること、さらに、社会人として自立していけるようになるにはさらなる教育的支援が必要であることです。各大学も、各高等学校も不登校問題に取り組み、葛藤しています。本学では、2024年12月16日、京都府立公立高等学校校長会進路指導専門部会長で京都府立北稜高等学校校長を務めておられる荒田和子校長先生をお招きし、高等学校の取り組みについてお話を伺いました。私たち大学は高等学校の取り組みから学び、それを実践しようと試みています。

花園大学は、「だれ一人取り残さない」を基本に、教育活動を展開しています。本課題にどう取り組むか、小規模大学である花園大学の正念場です。

前期学位記授与式

9月26日(木)、教堂ホールにて2024年度前期学位記授与式を挙行了しました。

学部生9名、大学院生1名が卒業・修了し、磯田文雄学長から一人ひとりに学位記が手渡されました。

磯田学長は「私は人を信じます。特に若者の力を信じています。皆さん、苦難を恐れず、際限のない社会の「大海」へ漕ぎ出してってください。」と式辞を述べられました。

引き続き、松田隆行文学部長、福富昌城社会福祉学部長が卒業生・修了生に向けての言葉を贈られました。

続いて、卒業生・修了生を代表して、社会福祉学部臨床心理学科の酒井北斗さんが「時には思いもよらない壁にぶつかり、挫折することがあるかもしれません。そんな時には、自分の軸をしっかり持ち、相手を思いやる心や感謝を忘れず、周りの人々と切磋琢磨し合うという花園大学で学んだ精神を胸に、困難を乗り越え、たくましく生きていこうと思います。」と謝辞を述べました。

式典終了後、学長を始めとする大学執行部の先生方と和やかな雰囲気での記念写真を撮りました。アットホームな花園大学らしい前期学位記授与式となりました。



大学摂心

2024年10月11日(金)に、今年度の大学摂心を実施しました。今年度より「参加しやすい大学摂心」を目指し、開講日の平日に開催しました。また、学生個々の時間割に合わせて自由に参加できるように授業時間帯ごとに内容を区切りました。内容としては、講義である基礎禅学・実践禅学とコラボして横田総長の法話の拝聴や坐禅を行いました。延べ参加者は例年の倍にあたる約50名となり、充実した時間を過ごすことができました。

坐禅終了後には、横田総長と大学摂心に参加した学生との交流会があり、学生たちには総長と直接話せる貴重な機会となりました。



本山早朝参拝

本学の建学の精神である「禅的仏教精神による人格の陶冶」における最も重要な行事のひとつである本山早朝参拝を2024年10月11日(金)に実施しました。

午前9時、厳粛な雰囲気の中約80名の学生・教職員は、妙心寺玉鳳院および開山堂にて、栗原正雄学園長導師のもと諷経参拝を行ない、開基花園法皇、開山無相大師の遺徳を偲び、今こうしてそれぞれがあることへの感謝の気持ちを新たにしました。



第38回花園大学人権週間報告

2024年度の人権週間を以下のとおり開催しました。12月2日の前夜祭では映画『マリウポリの20日間』を上映しました。翌3日からは、一般社団法人若草プロジェクト理事の瀬尾まなほさんから『瀬戸内寂聴さんと若草プロジェクト』、同じく理事の佐藤静江さんから『なぜ若年女性支援か―誰もが大切にされる社会を―』、4日には、難病学生患者を支援する会の久保田一男・鈴木美さんから『病弱高校生の人権と教育保障』、5日には弁護士細田梨恵さん、旧優生保護法国家賠償訴訟兵庫原告の鈴木由美さんから『旧優生保護法が社会に与えた影響とこれから在るべき社会とは』の3つの講演会を開催しました。

今回も世の中にある様々な問題を取り上げ、当事者の方、支援者の方をお招きしました。世界では、私たちの想像を超える惨事が起きています。日本国内に目を向けても、私たちが暮らす日常生活のそばに想像を絶する状況があります。知らなければ見過ごしてしまう、無関心で通り過ぎてしまう、聞くのもつらい状況があります。ただ今回のお話で、大変な状況の中でも、声をあげる、あげ続けることによって、状況が変わるんだという希望を感じました。久保田さんご夫婦の活動により、難病高校生の教育環境が整えられていく過程を、細田さん・鈴木さんの、裁判により旧優生保護法に対して歴史的な最高裁判決が出るまでの道のりを、すがすがしくお話される姿に、私たちもあきらめずに前を向かなければいけないと勇気づけられました。



進路サポート課

**教員と連携を図りながら個別対応をベースに、
本人が納得できる進路を自分自身で探すサポートを行っています。**

「売り手市場」「早期選考」「長期化」「多様化」など、学生を取り巻く情勢は、年々変化し続けています。早期選考型インターンシップから3回生での早期内定者も出てきている状況です。

※2025年大卒求人倍率は、1.75倍（2024年卒1.71倍、2023年卒1.58倍）

本学では、学生にとって初めて経験する就職活動への様々な「不安」を、一つひとつ準備することによって「安心」に変えるため、進路サポートシステム「花☆サポ」^(※)を活用し、毎年実施している基本企画を着実に実施することに加え、新しい取り組みを考えて企画実行するよう心掛けています。

2月18日から21日は、主に2026年3月卒業予定者向けに「就活サポートWEEK」を開催。「就職ガイダンス：本番直前最終対策編」や「厚生労働省キャリア形成講座：納得進路サポート講座」に加え、公的サポート機関を含む企業・福祉団体が一堂に会する「合同就職説明会」を学内で実施しました。

2回生には、必修の基礎教育科目「学びのナビゲーション：進路を考える」と連携し、15コマ中2コマをキャリアについての講義に充てています。まず、京都中小企業家同友会の方に登壇いただき、働くということや仕事・進路の選び方、社会へ出るための準備について講演いただきました。さらに進路サポート課からも、いよいよスタートする就職活動について詳しく説明をしました。

また、在学中はもちろん就職活動や社会へ出てからすぐに活かせる「MOS講座（Word・Excel・PowerPoint）」（講座費無料、受験料のみ別途）を、花園大学を会場にて実施し、受験者全員が合格しました。今後も継続して実施する予定です。



※進路サポートシステム「花☆サポ」

スマートフォンやパソコンから、求人やインターンシップの検索、個別相談・支援講座参加予約、協定型インターンシップ・職業体験の参加履歴書・履歴書記入例、各マナーシートがダウンロードできる他、就活準備動画の視聴など、進路・就職活動には必須のシステムです。

京花祭 花園大学学園祭2024 京花繚乱～花大に咲き誇れ～

今年度も「京花祭」に多くのご来場を賜り、誠にありがとうございました。今年のテーマは「京花繚乱～花大に咲き誇れ～」でした。このテーマには、学生一人ひとりが自身の魅力を開花させることを願う思いが込められています。

今年度は仏教や臨済宗に関するクイズラリーに加え、本学のマスコットキャラクター「はなまるだ」のフォトスポットを新たに企画し、多くの来場者に花園大学の魅力を感じていただけたと思います。また、露店ではサークル出店や外部のスイーツ、唐揚げなどが人気を博し、会場全体が活気に包まれました。

ステージでは、京都大学・大阪公立大学落語研究会の皆様による落語や漫才、また主謀者翔馬様、金子みゆ様によるライブが来場者を楽しませ、恒例の抽選会も笑顔に満ちたひとときとなりました。トークショーでは声優の細谷佳正様をお迎えし、1日目の雨模様を吹き飛ばす盛り上がりを見せました。

初めて運営に携わる学生会メンバーが多かったのですが、皆様の温かな支援により無事成功を収めました。この経験は貴重な糧となり、来年度への大きな一歩に繋がることを確信しております。京花祭の開催を支えてくださったすべての皆様に心より御礼申し上げます。今後もこの学び舎で新たな花が咲き誇るよう、尽力してまいります。

学生会「喫茶去」

会長 雁瀬 孝耶



「白隠フォーラム in 宇和島」開催のお知らせ（国際禅学研究所）

花園大学国際禅学研究所は、2025年9月27日（土）～28日（日）、愛媛県の宇和島を舞台に、臨済宗中興の祖・白隠禅師にまつわるイベントを開催致します。

9月27日（土）には、妙心寺派の「白隠さんの会（白隠禅師奉賛会）」との協力で、愛媛に伝わる白隠禅師と臨済禅の足跡をたどるツアーを企画しております。大乘寺（宇和島市）への参拝など、バスで各所をめぐりながら禅に触れてまいります。また、翌9月28日（日）には、宇和文化会館（愛媛県西予市）にて「白隠フォーラム」を開催し、芳澤勝弘先生（弊所顧問）、河野徹山老大師（大乘僧堂師家）、山田広志先生（大洲市教育委員会）によるご講演を頂戴します。三先生には、白隠禅師と四国のご縁をお話し頂きます。

詳細については、今後、国際禅学研究所ホームページならびに大学ホームページなどを通して発信してまいりますので、情報にご注目頂ければ幸いです。このイベントを通して、花園大学同窓生・後援会の皆さま、地元・四国の教区の皆さま、そして禅とその文化に関心のある皆さまに、花園大学とその諸活動に接して頂きたく考えております。多くの方に御参加頂きますよう、お願い申し上げます。



白隠慧鶴「布袋吹於福図」
（愛媛県・法華寺蔵／大洲市立博物館寄託）

〈凱旋セレモニー〉廣瀬順子氏 × 横田南嶺総長 対談

横田南嶺総長は 横田▶ で表記、廣瀬順子氏は 廣瀬▶ で表記しています。

パリパラリンピック金メダリスト廣瀬順子氏 凱旋セレモニーを開催しました



2024年11月5日（火）のお昼休み、約100名の来場者が見守る中、パリパラリンピック金メダリストの廣瀬順子さんの凱旋セレモニーを開催しました。

野口善敬理事長より花園学園スポーツ栄誉賞、磯田文雄学長より花園大学スポーツ賞、佐野泰典同窓会副会長より同窓会特別賞が授与されました。

横田▶ 廣瀬さん、パラリンピック金メダルおめでとうございます。そして、この花園大学をお忘れなく、お越しいただきまして本当にありがとうございます。お伺いしたいことがたくさんありまして、まず柔道を始めたきっかけというのは？

廣瀬▶ 小学校5年生のときに読んだ少女漫画の「あわせて1本！」がきっかけで、主人公の女の子が男の子を投げ飛ばしている姿がかっこいいなと思って始めました。

横田▶（実際）投げ飛ばしましたか？

廣瀬▶ そうですね（笑）。何人か投げ飛ばしたと思います。

横田▶ それがきっかけで始められて、なぜ「花園大学」だったのでしょうか？

廣瀬▶ 高校を卒業した後に視覚障害を持ったのですが、病院を退院した後に通っていた広島のリハビリセンターに花園大学の卒業生がおられて、その方に「目が悪くても通える大学あるよ」と教えていただいて、花園大学に入りました。

横田▶ 入学されたのは2010年4月ですね？大学生活はどうでしたか？

廣瀬▶ はい。在学中は教職員の方々や友達に恵まれて、それまでの中で一番楽しい学生生活を送りました。自分が視覚障害を持っていて、難しいことや困っていることを大学に伝えるとすぐサポートしていただきましたし、私は一番前の席に座ることが多かったのですが、前の席って空いていることが多いじゃないですか。でも友達10人ぐらいがいつも一緒に前の席で授業を受けてくれて、助けてくれる人がすごくたくさんいたと思います。

横田▶ 残念ながら本学には柔道部がありませんよね？

廣瀬▶ 高校までの部活が辛かったのもう柔道はしなくていいと思って、柔道部が無い花園大学に入りました。でも3回生のときに視覚障害者柔道を始めて、それから大学の方に相談して、近隣大学の柔道部を見に行ったり、京都の町道場で練習させてもらったりしていました。

横田▶ しばらくやめておられたけれど、もう1回やってみようという気持ちがあったと。

廣瀬▶ そうですね。やはり周りの子と同じスピードで勉強が

できなかったり、自分が一生懸命になれるものがなかなか見つからなかったりして、もう一度柔道したら一生懸命になれるかなという気持ちで再開しました。

横田▶パラリンピック出場は3回目ですね。パラリンピックを目指そうとなったのはいつ頃からですか。

廣瀬▶柔道を仕事として会社に就職させていただいたので、しっかり練習してパラリンピックを目指そうという気持ちになりました。

横田▶なるほど。これは一番お伺いしたかったのですが、今年の5月にWBC侍ジャパン（日本代表）前監督の栗山英樹氏にお越しいただき、我々に「夢は正夢」という言葉をいただきました。夢は正夢にしなければならぬと。これはなかなか難しい事ですね。廣瀬さんはパラリンピック出場を目指して、それをまさしく「正夢」に実現されたわけですね。秘訣をお伝えいただけますか。

廣瀬▶一番大事なことは、諦めずに頑張ることだと思っています。その過程で良い結果が出ず、くじけそうになることもあります。最終的にそれがいい結果にならなくても頑張ったこと自体に意味がある。これまでも試合でうまくいかない時もありましたが、今回金メダルを獲得し、やはり頑張ることには意味があると思いました。諦めずに頑張ることが大切だと感じました。あとは自分1人だけでは頑張れないので、周りに支えてくださる方がいて、その方たちのおかげで頑張ってきたと思います。

横田▶今日も目の前に座っておられるご主人との出会いについて、お伺いできますか。

廣瀬▶主人との出会いは、選手同士と一緒に練習や海外へ試合に行き、そこから仲良くなって、私からプロポーズをしました。

横田▶そうでしたか。ご主人からはどんなサポートがありましたか？

廣瀬▶私の中で柔道は笑ってはいけないスポーツと思いながら厳しい練習をしてきましたが、主人と一緒に練習すると「もう大人なんだから練習中に笑ってもいいし、楽しくやった方が強くなるよ」と言ってくれて、それから柔道に楽しく前向きに取り組めるようになりました。

横田▶思考を変えて、楽しさを見いだしていると。やはり変わってきますか。その後の自分の進化というのか強さ、レベルというのは。

廣瀬▶楽しんだほうが前向きに取り組めますし、楽しく練習することで、たくさんの人たちと仲良くなれて、練習に行きたいという気持ちになれるようになりました。

横田▶今回、私から廣瀬さんに字を書いて差し上げたいというと、「楽しい」という言葉がいいと言われました。「楽しみ、その中にあり」は論語という古い書物にある言葉で、これは孔子の弟子の顔回が、非常に貧しく食事も十分ではな

いようなつらく苦しい生活をしていて、人はそれを苦痛と思うのですが、顔回はその中に楽しみを見出していた。そのことを孔子が高く評価しているというところがありまして、ぱっと思い浮かんだのがその言葉だったものですから、「楽しみ、その中にあり」という言葉を書かせていただきました。

横田▶さて、廣瀬さんはこうして、パラリンピック金メダルという夢を正夢にされて、これからの夢はありますか？

廣瀬▶ずっとパリパラリンピックを目指していたので、今まで明確には見えていなくて、一つだけあるのは、主人とずっと一緒に楽しく過ごしたいなと。

横田▶いやもう、これで話が終わるくらいのいいお言葉を。名残惜しいですが、もうだんだん時間が参りまして、最後に本学の学生たちにメッセージを頂戴したいと思います。

廣瀬▶本日はこのような機会をいただき本当にありがとうございました。

私は高校生のときに目が悪くなり、それから花園大学に入学しましたが、本当にたくさんのサポートと、優しい友達に恵まれて、すごく楽しい大学生活を送りました。福祉の授業で、よく共生社会という言葉が出てくると思うのですが、私にとってこの大学は、小さな共生社会のような場所で、これからもそのような場所であり続けてくれたらいいなと思っています。皆さんも、町で障害のある方に会われた時、どういふうに助けたいかわからなくて声をかけづらいことがあると思います。「何か助けましょうか」の一言だけで助かると思うので、自然に助けてもらえたら嬉しいなと思います。私はこれまで、練習をどれだけ頑張ってもうまくいかないことがあって、その中で諦めずに頑張ってきたことで金メダルを取ることができました。皆さんもこれから社会に出たり、大学で資格を取ったりする中で、頑張ってもうまくいかないことがあると思うのですが、夢を叶えるために一番大切なことは、諦めずに頑張ることだと思っています。自分の夢に向かって頑張ってもらえたらいいなと思います。今日はありがとうございました。

横田▶廣瀬さんさつき控え室で、人前で喋るのは苦手だとおっしゃっていましたよね。全然そんなことないじゃないですか。素晴らしいメッセージをありがとうございました。



同窓会ニュース

令和6年度 佐賀県支部総会報告 ……

令和6年11月11日（月）武雄市「湯元荘 東洋館」にて令和6年度の佐賀支部総会を開催しました。会員12名の参加と大学より井戸清隆氏（花園大学事務局長）、坂ノ下祐大氏（花園大学同窓会事務局）のご臨席を賜りました。会中は会員より忌憚のない意見、質問等があり有意義な総会になりました。

また、大学より近況報告をご丁寧に説明していただきました。花園大学も新たな試みをされているようで、同窓生として嬉しく思いました。

これからもたくさんの方に参加していただけるように同窓会を盛り上げていきたいと思います。来年の再会を祈念して閉会いたしました。

事務局長 古賀 俊史



令和6年度 三重県支部総会報告 ……

花園大学同窓会三重県支部では、令和6年12月16日午後6時より、津市のプラザ洞津において、会員10名が参加し、大学事務局より山崎事務局次長・坂ノ下事務員にお来しいたき、令和6年度支部総会を開催した。

はじめに、分部支部長挨拶し、今回を最後に支部長を退任することになったと挨拶があり、つづいて、山崎事務局次長が挨拶され、議事に入った。

議事は令和5年度会計決算報告・監査報告がされ承認された。

慶弔費の出金について、もっと具体的な金額や方法について検討し、はっきりしたほうが良いとの提案があった。

次に花園大学の坂ノ下事務員より、現在の三重支部管内の学在学生の報告があり、現在4回生2名・3回生4名・2回生2名、計8名であった。

会員からの質問（要望）があり、大学立地の京都という「地の利」を生かした学生募集や、外国語のさらなる充実した学習が必要。また、経営面としては、もっと留学生を受け入れるなど、進行する少子化に対応していったらどうか。などの提案があった。

次に役員交代についての議事に入り、分部支部長より役員会で了承された新人事が報告され、支部長に村山光彦、副支部長に阿部喜兵衛・中村信裕、会計に松尾一秀が、また分部支部長は顧問及び監査に、また委員はそのまま留任とする旨それぞれ承認された。

その他については、以前は台湾僧侶と一緒に勉強したこともある、もっと海外僧侶の受け入れも検討したらどうかなど、留学僧侶の受け入れについて提案があった。

議事終了に引き続き、懇親会を行い、会員相互の親睦を深め、大学歌を斉唱し中村副支部長の閉会に辞をもって総会を終了した。

次回の盛会を祈念いたします。



支部長 村山 光彦

第97回 花園大学公開講演会

2024年11月10日ホルトホール大分にて花園大学特別教授佐々木閑氏を迎え公開講演会を開催しました。

講演前には花園大学同窓会大分県支部廣見宗泰支部長、続いて花園大学の井戸清隆事務局長が舞台挨拶をおこないました。

講演は、現代に於ける仏教の役割と題して、佐々木閑特別教授が花園大学に出会うまでの話から始まり、仏教とはどういうものか最終的にどうなる事か、そして宗教とはどのようなものかという事を、分かりやすく講演されました。当日は佐々木先生のご講演を聞くために、遠方よりお越しいただいた方もいらっしゃいました。宗教関係者だけではなく、来場者の皆様にとっても沢山の学びを頂いた講演となりました。



お元気ですか 

硬式庭球部 〈創立45周年記念祝賀会〉開催について

硬式庭球部OB・OGのみなさま、いつもご支援いただきありがとうございます。

今年はいよいよ硬式庭球部45周年を迎えます。ぜひ多くの皆様方と喜びを分かち合いたく、記念祝賀会を下記日程にて企画いたしました。

ぜひ、ご予定に加えていただきご参加くださいますようお願いいたします。

参加申し込み等含む詳細については、追って郵送にてご案内いたします。

日時：2025年10月4日（土）18:00～（受付17:30～）

場所：花園会館

なお当日と翌日には、花園大学テニスコートにて親睦を深めていただく予定です。

《お願い》

ご卒業後、お名前や住所変更等で十分に情報をお届けできていない方が多くいらっしゃいます。お手数ですが、同期やその前後で連絡を取り合ってください、情報共有をおねがいします。変更がございましたら、下記メールアドレスまでご連絡ください。

※花園大学硬式庭球部OB・OG会メールアドレス：hanazonotennis1980@gmail.com



硬式庭球部では、OB・OGのみなさまと現役学生の交流をはかるべく、合同練習会を開催しています。
日程はInstagramにて公開しております。
花園大学体育会硬式庭球部Instagramはこちらからどうぞ。
現役学生の様子も発信しています。



部 活 紹 介

ラグビー部

ラグビー部は1994年に創部され、関西大学Dリーグからスタートしました。1年目は人数不足のためリーグ戦出場はできませんでしたが、2年目以降は順調に勝ち上がり、1999年にBリーグ昇格を果たしました。それから24年間決して多くない部員数でBリーグ優勝やリーグ上位に位置づけ、入替戦も数回挑戦してきました。惜しくもAリーグには昇格できず、ここ数年はBリーグでも下位になっていました。そして2024年度のリーグにて、チームで初めてリーグ戦全敗という結果に終わり、入れ替え戦にも敗退、24年ぶりにCリーグへ降格となりました。

部員数が少ない事も要因だと思われますが、なにより一番の大きな要因と考えるのは留学生の受け入れを無くしたということです。今までは留学生3人（留学生は試合中3名まで出場可）の突破力が大きく、本学はそこを起点として攻撃を仕掛けていました。その起点となる留学生がいなくなると、攻撃力は激減し守備ばかりを意識した試合となってしまったことが原因と考えています。

今後も選手確保が大変になると思われますが、今いるスタッフと部員でまずはBリーグに戻ることを目標に日々頑張っていきます。



硬式野球部

硬式野球部は、2024年4月に1回生55名を迎え、100名を超える部員数のもと、全日本大学野球選手権ベスト8を目標に掲げ、日々の練習に取り組んでいます。

春季リーグ戦では、終盤まで優勝争いをしたものの、最終節で佛教大学に2連敗するなど10試合を戦い、6勝4敗の3位という悔しい結果に終わりました。春季リーグ戦終了後は秋季リーグ戦に向け、チームの課題克服を中心に取り組みました。また、新たな試みとして夏休み期間中に東京遠征を実施し、自分たちが目標とする全国大会ベスト8レベルのチームと対戦することにより、そのレベルを肌で感じ取ることが出来ました。

秋季リーグ戦では、初戦の明治国際医療大学に敗れるなどシーズンを通して苦しい戦いが続き、7勝7敗の4位という結果となりました。

しかし、個人タイトルを獲得する選手も複数名輩出し、またリーグ戦を通して成長した選手も多く、来季に向けて収穫の多いリーグ戦でもありました。

現在は、フィジカルトレーナーのご指導のもと体力向上を目的としたトレーニングを中心に練習を行っています。また管理栄養士の先生をお招きし、食事や栄養面からの体づくりにも力を入れています。

2月中旬には宮崎で春季キャンプを実施し、個人とチームの技術の向上はもちろんのこと、集団生活を行うことによりチームワーク、結束力の向上を目指し、たくましいチームを作りたいと思います。

4月からは新たに49名の部員を迎え、これまで以上に大所帯の硬式野球部となりますが、部の目的である「野球を通しての人格の形成」の達成のため、日々精進して参ります。今後とも硬式野球部への応援をよろしくお願いいたします。



新体操部

現在、新体操部は男子10名、女子7名の計17名で活動しています。

2024年度は台風の影響により、本来4日間で開催されるはずの全日本学生新体操選手権大会が1日のみの開催となり、個人も2種目総合となってしまいました。選手たちは日々懸命に練習を重ねてきましたが、思うような試合とならず苦しい思いをしてしまいました。しかしながら、男女ともに1回生が多い中、チーム一丸となって戦い抜くことができたのは、大きな成長だと感じました。

2025年度には、男子10名、女子12名の計22名と人数も増えます。女子は団体を2チーム組むことができるようになり、全日本選手権大会で活躍できるよう頑張りますので応援のほどよろしくお願いいたします。



剣道部

本学剣道部は創部79年の歴史のあるクラブです。現在は4回生5名、3回生5名、2回生6名、1回生2名の計18名で活動しています。他校の強豪校より人数は劣りますが、少人数精鋭で日々稽古に励んでいます。



本年の目標も全日本学生剣道優勝大会への出場であり、男女ともに出場できるように精進していきます。

本年度は昨年に引き続き春の合宿では福井へ行き、夏は京丹後の方で合宿をしました。また、強豪校との練習試合、稽古をしました。

その結果、京滋大会では男子団体が3位、京滋新人戦では男子個人で2位の結果を残しました。全日本剣道大会へは出られなかったですが来年度はこの悔しさをバネにして4月の関西個人、5月の西日本大会、6月の京滋大会で優勝できるよう頑張っていきたいと思います。

卒業生の活躍

卒業生 末清弘聖さんが国スポで銅メダル獲得!!

2024年10月26日(土)より開催された第23回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」のボッチャ競技に本学の卒業生である末清弘聖さん(社会福祉学部社会福祉学科2013年3月卒)が広島県代表選手として出場され、銅メダルを獲得しました。



ホームページ、ツイッター、インスタグラムでも大学の情報を発信しております。



花園大学
公式ホームページ



花園大学 同窓会通信 110 号 2025.3 発行

〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1

同窓会事務局

電話 (075) 279-3630 (直)

F A X (075) 823-2412 (直)

E-mail dousou-h@hanazono.ac.jp